

2021年 社長新春ご挨拶

日清製粉グループ本社取締役社長 見目信樹

主要食糧等の安定供給で社会に貢献

あけましておめでとうございます。2021年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により私たちの生活環境が一変するとともに、経済活動の面でもあらゆる企業が大きな影響を受けました。国内経済は年末にかけて回復基調に転じたもののそのペースは鈍く、個人消費や設備投資に停滞感が見られるなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような中、当社グループは、社会的使命である小麦粉をはじめとする「食」の安定供給の確保に最優先で取り組み、また、その使命を支える従業員の安全確保に努めました。新しい生活様式の形成等、社会の変化によって顕在化した内食需要の拡大やそれに伴う成長販路に対する対策を強化するとともに、事業環境の変化に適合した業務の見直しや効率化、コスト改善に全社で取り組みました。

また、各事業におきましては、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」で掲げた“未来に向かって、「健康」を支え「食のインフラ」を担うグローバル展開企業”を目指し、様々な活動に取り組んでいます。

特に、今後の日清製粉グループの成長を牽引する製粉海外事業と中食・惣菜事業で一昨年実施した大型M&A案件に関して、買収以降、それらの会社のマネジメント体制の整備や一層の事業拡大に向けた業務改善などに注力しました。合わせて、収益基盤が揺らいだ米国製粉事業の立て直しにも総力を上げて取り組みました。今後の成長ドライブ事業として位置付けている海外事業、中食・惣菜事業をそれぞれ強化することにより、グループ全体のモデルチェンジを進めました。

加工食品事業においては、感染症対策による食需要の変化を踏まえた付加価値製品の開発を推進しました。当社が注力する「簡単・便利」・「本格」・「健康」をキーワードにした

関連製品の売上構成比率は順調に伸長しており、コロナ禍において家庭内調理の増加に対応した多くの新商品を9月に上市したことは市場からも一定の評価をいただきました。また、昨年1月に本格稼働を開始したベトナムのプレミックス新工場では、R&Dセンターを活用した差別化製品の開発に取り組んだほか、医薬品原薬EPA-Eについては段階的に生産性の向上を図るとともに、更なる能力増強についても検討を進めるなど、将来の成長を見据えた取組みを推進しました。エンジニアリング事業についても、中長期的には食品工場の自動化ニーズなどによって受注環境が好転していくものと捉えており、工事管理の徹底や様々な効率化施策を継続しております。

2020年は厳しい年ではありましたが、その中であって社会機能維持のための主要食糧等の安定供給こそが当社グループの社会的使命であり、企業価値の源泉であることを再認識することとなりました。今後も当社グループはこの基本的な考え方に基づき、長期ビジョンで掲げた姿の実現に向けてグループ各社が一体感を持った事業運営を行い、日清製粉グループ全体のさらなる成長に向けた活動を加速していきます。

本年も関係者の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げますと共に、皆様のより一層のご発展とご健勝を心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。